



間伐材を有効利用し、
性能アップさせた植生マットです!!

主構成材料は生分解する素材。
時間の経過と共に自然に還ります!!



施工直後



施工後4カ月



施工直後



施工後5カ月

森樹郎マット



森樹郎マット21



特長

- ① 間伐材(木毛)を有効利用し、肥料袋を装着したマットです。
- ② 肥料袋による小段形成と長期に亘る肥料効果で持続した緑化を実現します。
- ③ 間伐材(木毛)を全面に装着することによって耐侵食・保温・保水性が向上し、確実にのり面を保護します。
- ④ 主構成材料は、生分解性の素材ですので自然に還ります。(森樹郎マット21タイプ)

標準規格

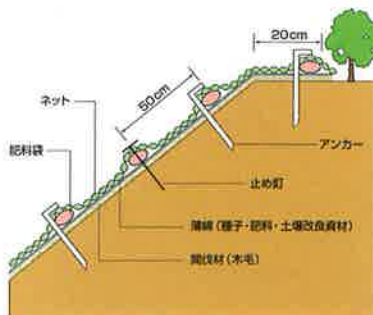
製品名	製品規格			ネット			1袋入数	備考
	幅	長さ	肥料袋間隔	材質	目合	色		
森樹郎マット	1m	10m	50cm	ポリエチレン	16×20mm	ディーブグリーン	20m ²	
森樹郎マット21				生分解性樹脂	12×20mm	ブラウン		

施工方法

- ① のり面の雑草、浮土砂、浮石などを除去し、マットが密着するよう清掃を行う。
- ② のり肩部を20cm程度巻き込み、薄綿の付いている面をのり面へ密着するように展開する。
- ③ 横の重ね幅は2cm程度、縦の重ね幅は10cm程度とする。
- ④ マットは、肥料袋を等高線状に展開する。
- ⑤ 所定本数のアンカー・止め釘を規定の間隔・箇所に取り込み密着させる。

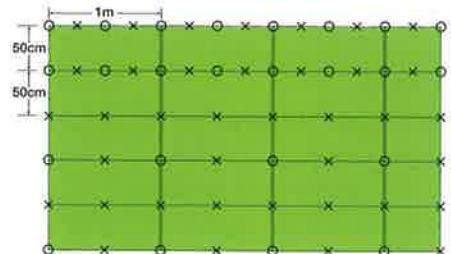
注) 降雨時の施工は避けてください。

張付方法



アンカー・止め釘打込み位置

○ アンカー(φ9mm×200mm) × 止め釘 150mm
— 肥料袋
・森樹郎マット: プラフッシャー付
・森樹郎マット21: 有機フッシャー付



アンカー規格、打込み位置については標準として示しておりますので、現地条件に合わせて適宜対応してください。

耐侵食性能

森樹郎マット工	99.7%
森樹郎マット21工	74.3%
対照区(裸地)	0%

■対照区(裸地)の耐侵食性能を基準(0)とした各工法の相対値です。
試験条件 ●土質: マサ土 ●土壌硬度: 25mm ●勾配: 1:1.0 ●雨量強度: 30mm/h(1時間連続降雨)

保温性能

地表温度 -1°C
森樹郎マット 0°C
森樹郎マット21 0°C

試験条件
●土質: 粘性土
●測定機器: サーモレコーダー-TR-71

保水性性能

木毛の利用形態による保水性比較

無処理	約30%
筋状埋(袋内挿入)	約40%
全面被覆	約50%

■灌水後の水量(100)に対する15日経過後の保水量の相対値です。
全面に被覆することで、保水性がアップします。